



愛知の「働き方改革」取組事例

知多信用金庫

所在地：愛知県半田市

業種：金融業

社員数：男性302名 女性259名（R2.10月現在）



取組の目的

仕事への情熱を育むためには、働きやすい職場環境とオフタイムの充実が欠かせません。「働き方改革」という言葉が生まれるかなり前から、金融機関の経営にとって働きやすい職場作りが重要だと考えた当時の専務理事（現理事長）の先導により、残業時間の削減に向けての取り組みを開始しました。当金庫では時間外労働の削減や有給休暇の取得促進など職員の仕事と家庭の両立を支援する体制の充実に向け、積極的に取り組んでいます。

取組の概要

○ 時間外労働削減の取組

- 毎週水曜日を定時退庫（退社）日（ノー残業デー）

平成16年にISO14001認証取得の際、省エネルギー活動の一環として毎週水曜日を定時退庫（退社）活動として取組を開始。職員個々の意識を高めるとともに制度の形骸化防止のため、朝礼時に効率的な業務遂行と定時退庫の呼びかけを徹底している。

- 業績評価表彰制度に退庫（退社）時間を導入

平成29年～平成30年の業績評価表彰制度の対象項目に前年比退庫（退社）時間を導入。導入により毎週水曜日の定時退庫活動だけでなく、常日頃から職員が不必要な残業をしないという意識が醸成された。

- パソコン使用時間の徹底

パソコンの使用時間は繁忙日や特殊事情を除き、原則就業時間内としている。

- 退庫（退社）時間の確認と要因分析

退庫（退社）時間の遅い店舗については、所管部署で遅くなった要因を確認・分析し、人員配置の参考にしている。

- 時間外労働の削減がサービス残業へ繋がらないように、各店舗の管理監督者に注意喚起と指導を行っている。

取組の概要

○ 年次有給休暇取得促進の取組

● 連続休暇制度

連続休暇制度は心身の充足を目的に年次有給休暇を5日間連続で取得する制度で、土日と合わせて9連休となるような連続休暇取得を促進している。計画的に取得できるよう毎年4月に申請し、また、未取得にならないよう所管部署で毎月取得状況を確認している。

● バースデー休暇

誕生日を含む前後1ヶ月の間にバースデー休暇（有給休暇）の取得を呼び掛けている。バースデー休暇は原則、週末か週初めの取得とし休日を含み3連休となるため、心身のリフレッシュと家族団欒を図っている。

● 業績評価表彰制度に有給休暇取得日数を導入

近年、有給休暇の取得は増加傾向にはあったが、平成29年より業績評価表彰制度に有給休暇取得日数を反映させたところ、有給休暇取得率はさらに上昇してきている。具体的には、営業店ごとに、上期・下期それぞれの（有給休暇取得日数÷人員）の数値が4.0以上で満点になるように設定した。

○ その他

- 業務改善促進の為、各部署の職員15名で編成した「提案審議委員会」を設置し、年に4回開催している。職員一人ひとりが考えた業務改善のための施策が提案できるようになっており、当該委員会では提案された施策を公正に審議し業務の効率化を図っており、職場環境改善の一助を担っている。

現状とこれまでの取組の効果

- 1か月平均の所定時間外労働は、平成28年度は9.7時間、平成29年度は7.9時間、平成30年度は5.1時間、令和1年度は5.8時間と時間外労働削減の効果が表れている。
- 年次有給休暇の1人あたりの取得率（1年間）は、平成28年度は56.1%、平成29年度は63.1%、平成30年度は64.6%、令和1年度62.8%と近年は安定して取得できている。
- 業績評価制度に有給休暇の取得日数を反映させたところ、令和2年上半期（4～9月）は、全ての営業店で満点となった。
- 「提案審議委員会」では多数の議題が審議されており、職員一人ひとりが積極的に業務を改善しようとする風土が醸成されている。なお、制度開始から1,800件以上の提案が挙がっており、直近では諸届の書式簡素化についての提案があり、顧客の要望に沿った対応を図ることができた。
- ノー残業デーにおける定時退社は、ほとんどの職員で実行できている。